

Course number		U-LAS00 20001 LJ34									
Course title (and course title in English)		自己存在論 I Ontology of Self I		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Institute for Liberal Arts and Sciences Professor, ABE HIROSHI					
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Philosophy(Issues)					
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A		Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters		2024・First semester	
Days and periods		Thu.2		Target year		2nd year students or above		Eligible students		For all majors	
(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)											
[Overview and purpose of the course]											
<p>「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っていると言えよう。</p> <p>本講義のねらいは、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。</p> <p>もとより「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。</p>											
[Course objectives]											
<p>「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではないとはいえ、それこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを理解する。</p>											
[Course schedule and contents)]											
<p>和辻哲郎の倫理学を近代日本哲学における「自己存在論」に数え入れることは至当であろう。和辻によれば、彼の「『倫理』の学は同時に『人間存在』の学でなくてはならぬ」のであり、そして我々の自己はこうした彼の所謂「人間存在」においてこそ成立するからである。しかも和辻倫理学は、近代日本の自己存在論の中でも、囊中の錐と呼ぶべきものである。それでは、和辻倫理学の特質とその重要な教説とは何か。それが自己存在論として優れている所以、及びその問題点はどのようなものであるのか。また和辻においては倫理学の体系が日本倫理思想史の構想と一対をなしているのであれば、同様の究明は、彼の倫理思想史に関しても行われる必要があるだろう。</p> <p>今年度の「自己存在論Ⅰ」では以上のような問題について考察することにする。如上の問題意識に鑑みて目下のところ、以下のような課題について、1課題あたり3~4回の授業を行う予定である(但しこの予定は適宜変更される場合もある)。なお授業回数はフィードバックを含め、全15回とする。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 和辻における倫理学と日本倫理思想史の関係2. 和辻倫理学の要点とその意義3. 和辻の日本倫理思想史の要点とその意義4. 和辻倫理学・倫理思想史の問題											
----- Continue to 自己存在論Ⅰ (2) -----											

自己存在論Ⅰ(2)

5. 問題の解決の試み

[Course requirements]

哲学系科目Ⅰ・Ⅱ（哲学Ⅰ・Ⅱ、倫理学Ⅰ・Ⅱ、科学論Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ等）の中、少なくとも一つを既修していることが望ましいが、そうでない場合にも本授業を履修して頂くことは可能である（その代わりに頑張って私の話に付いてきて下さい）。

[Evaluation methods and policy]

レポート試験によって評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業中に指示する文献を予習し、筆記した講義ノートを復習する。

[Other information (office hours, etc.)]